

バナキュラー建築と 現代の建築環境

岩村 和夫

東京都市大学名誉教授
香港珠海大学客員教授
株式会社岩村アトリエ代表取締役



目 次

主題解説	03
A. バナキュラー建築の万華鏡(抜粋)	09
1. 中 東	
2. ギリシャ	
3. ヨーロッパ	
4. 東南アジア	
5. 日 本	
B. バナキュラー建築の現代的解釈	61
1. バナキュラー建築と建築家	
2. 日 本-1: 沖縄	
3. 日 本-2: 埼玉	
4. 日 本-3: 屋久島	
結 語	104

主題解説

私たち建築家は、常に新たな時代の理念や課題に取り組んできました。例えば、持続可能性、エネルギーの有効利用、自然災害に対するレジリエンス、デザインと建設におけるコンピュータ技術、個人や国の安全、社会的責任などです。

その結果、それらのテーマを共有する世界を結びつけ、グローバルに共通する基準、「ユニバーサル・スタンダード」を作り上げました。

一方、個々の建築家は、自身が属する地域文化、国のアイデンティティ、経済、法制度、社会的価値、建築材料、教育制度、そして多様なライフスタイルの中で主に活動し、その内容を熟知しています。

すなわち、私たちはこうした地域的な文脈の中に、上記のユニバーサル・スタンダードを導入することに注力してきたと言えます。

では、地域に根ざす「バナキュラー建築」から学び、その優れた価値を現代の建築環境のユニバーサルな側面に取り戻すには、どうすればよいのでしょうか？その事例をレビューしてみたいと思います。

03

バナキュラー建築

それは、地域の必要性や地場の建築材料の調達可能性に基づき、地方の伝統を反映してデザインされた特徴を持つ建築を意味します。

少なくとも、元来のバナキュラー建築とは、正式な教育機関で学んだ建築家がデザインしたものではなく、その地方の職人の技術と伝統に依ったものです。

しかしながら、19世紀末頃から、数多くの職能的建築家が、冒頭の特徴に取り組み始めました。

04

(Source: Wikipedia, the free encyclopedia)

バナキュラー建築

そして、「バナキュラー建築」は、建物の機能的な必要性に優り、意図的に美的な観点からデザインされたことを特徴とする、いわゆる「洗練された建築」と対比をなすものです。

また、重要なテーマである「伝統建築」は、後でも触れますが、その両極の間に位置することに留意すべきです(P08参照)。

05

(Source: Wikipedia, the free encyclopedia)

語源

バナキュラーという言葉は、

ラテン語で「国内の」、「土着の」、「その土地固有の」を意味する **ヴェルナキュルス** (*vernaculus*) に由来し、さらに **ヴェルナ** (*verna*) は、「土着の奴隷」あるいは「母国生まれの奴隷」を意味します。

そして、言語学の分野で、「時間」、「場所」あるいは「群」に関する言葉から借用したものです。

一方、建築の分野では、他の場所から持ち込まれたりコピーされたものではなく、特定の時代や場所に固有な建築タイプのことです。

そして、多くの場合、住宅建築に用いられます。

06

(Source: Wikipedia, the free encyclopedia)

定義

The Encyclopedia of Vernacular Architecture of the World* は、「バナキュラー建築」を以下のように定義しています：

『...人々の住居やその他全ての建築で、その環境条件や入手できる資源に応じ、住み手あるいはそのコミュニティによって、伝統的な技術で建てられたもののことです。』

あらゆるバナキュラー建築の形態は、その背景となる社会文化の価値、経済、暮らし方に適応することで、固有の必要性を満たす結果として生まれるものです。

バナキュラー建築の幅広い草の根の理念は、土着の、地域に根ざした建築や民俗的建築等の建築研究分野に含まれます。そして、ちょうど「民芸」と「芸術」との対比のように、洗練され、形式的あるいはアカデミックと呼ばれる、より知的な建築とは対照的な存在と言えます。』

*世界バナキュラー建築大辞典

07

(Source: Wikipedia, the free encyclopedia)

Ronald Brunskill* は次のように定義しました：

『...デザインの訓練を受けたことのない、アマチュアがデザインした建築：ファッションブルなことに殆ど関心を示さず、その地域独特の建て方に習いながら、機能や使い勝手が最優先され、美的な配慮はそれ自体にはあるものの、かなり限定的です。当然、地場の材料が多用され、それ以外の外来の材料が選ばれることは滅多にありません。』

「バナキュラー建築」を、いわゆる「伝統建築」と混同してはなりません。もちろん、関連性はありますが、伝統建築には、例えば寺院や宮殿のような、通常「バナキュラー」の定義から外れる、洗練された要素を持つ建築も含まれるからです。

建築の専門用語では、「バナキュラー」は「洗練」と対比的に用いられ、後者は建物の機能的必要性を超えた美的な目的のために、プロの建築家によって意図的に導入された質の高いデザイン要素が特徴です。』

* 1929-2015 イギリスの学者で、建築史、特にバナキュラー建築が専門

08

(Source: Wikipedia, the free encyclopedia)

A. バナキュラー建築の万華鏡

1. 中 東 (サウジアラビア, シリア)
2. ギリシャ
3. 欧 州 (イタリア, ドイツ, フランス, オランダ)
4. 東南アジア (インドネシア, 中国)
5. 日 本

09

1.中 東

1-1. サウジアラビア

- >アブハ
- >タイフ
- >ジェッダ

1-2. シリア

- >ダマスカス



10

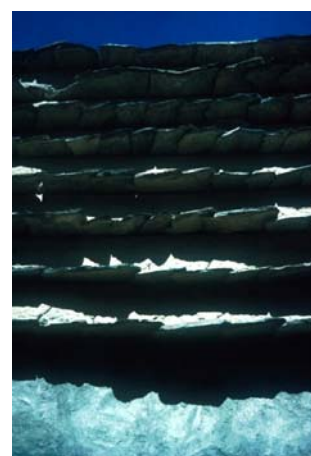
1-1. サウジアラビア、アブハ-1 : 土の層状住宅



11

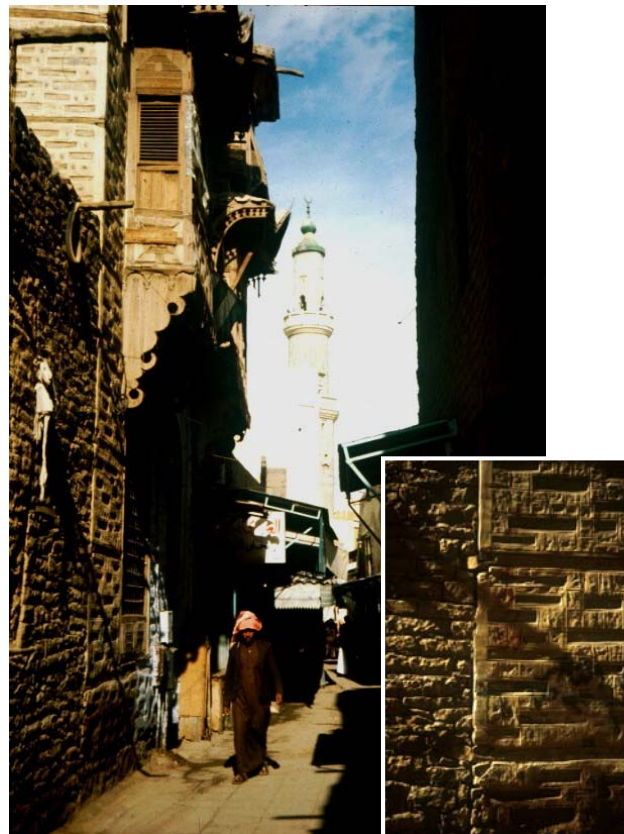
© Kazuo IWAMURA

1-1. サウジアラビア, アブハ-2 : 空冷フィンの層状住宅

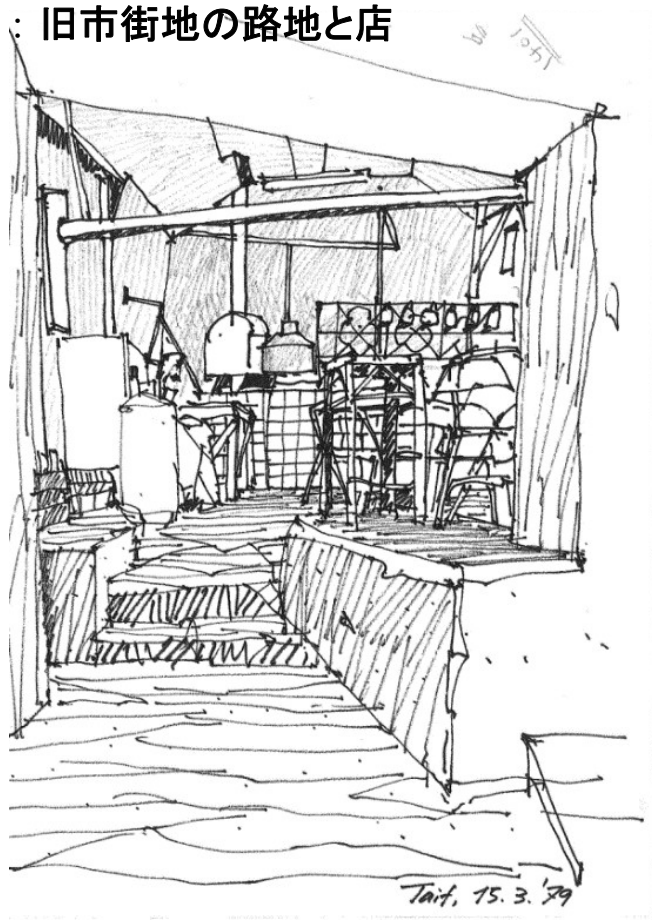


© Kazuo IWAMURA

1-1. サウジアラビア、タイプ-1 : 陰翳の旧市街地



1-1. サウジアラビア、タイプ-2 : 旧市街地の路地と店



1-1. サウジアラビア, ジェッダ : 紅海港街の土造集合住宅



© Kazuo IWAMURA

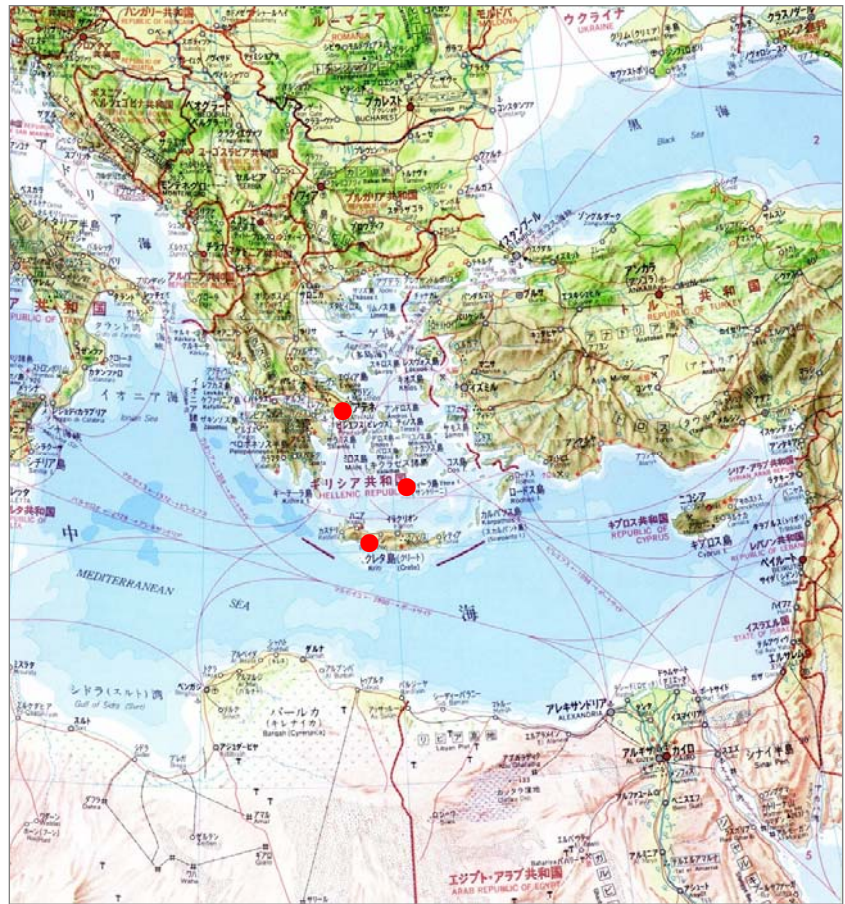
1-2. シリア、ダマスカス : 回廊パティオのある都市住宅



© Kazuo IWAMURA

2. ギリシャ

- >クレタ島
- >スキアトス島
- >サントリーニ島



17

2-1. ギリシャ、クレタ島：ヴァナキュラーな街並みのDNA



© Kazuo IWAMURA

2-1. ギリシャ、スキアトス島：住民手作りのまちづくり



© Kazuo IWAMURA

2-1. ギリシャ、サントリーニ島：断崖上の理想郷



3. 欧州

3-1. ポルトガル

>ヴァルツェス・コヴァ

3-2. イタリア

>サン・ジミニアーノ

>ヴェニス

>フィレンツェ

3-3. ドイツ

>ウンターアマガウ

>ゴスラー

>ヨーク

3-4. フランス

>パリ

3-5. オランダ

>デルフト



3-1. ポルトガル、ヴァルツェス・コヴァ: 石の家,



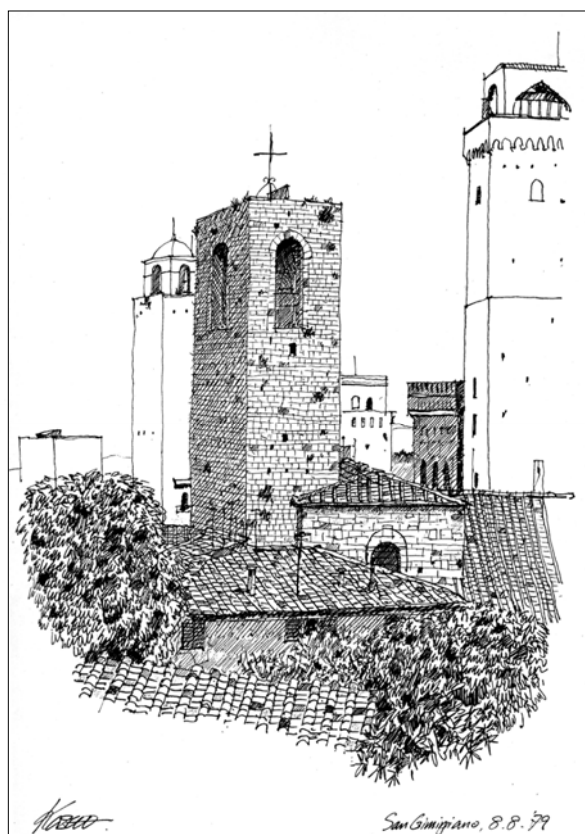
3-1. イタリア、サンジミニアーノ-1：街並みのお手本



Kazuo

San Gimignano. 9.8.79

23



Kazuo

San Gimignano, 8.8.79

3-1. イタリア、サンジミニアーノ-2：素材のパレット



© Kazuo IWAMURA

3-2. イタリア、ヴェニス-1 :
水運の豊穡



© Kazuo IWAMURA

3-2. イタリア、ヴェニス-2 : 色彩のバナキュラー

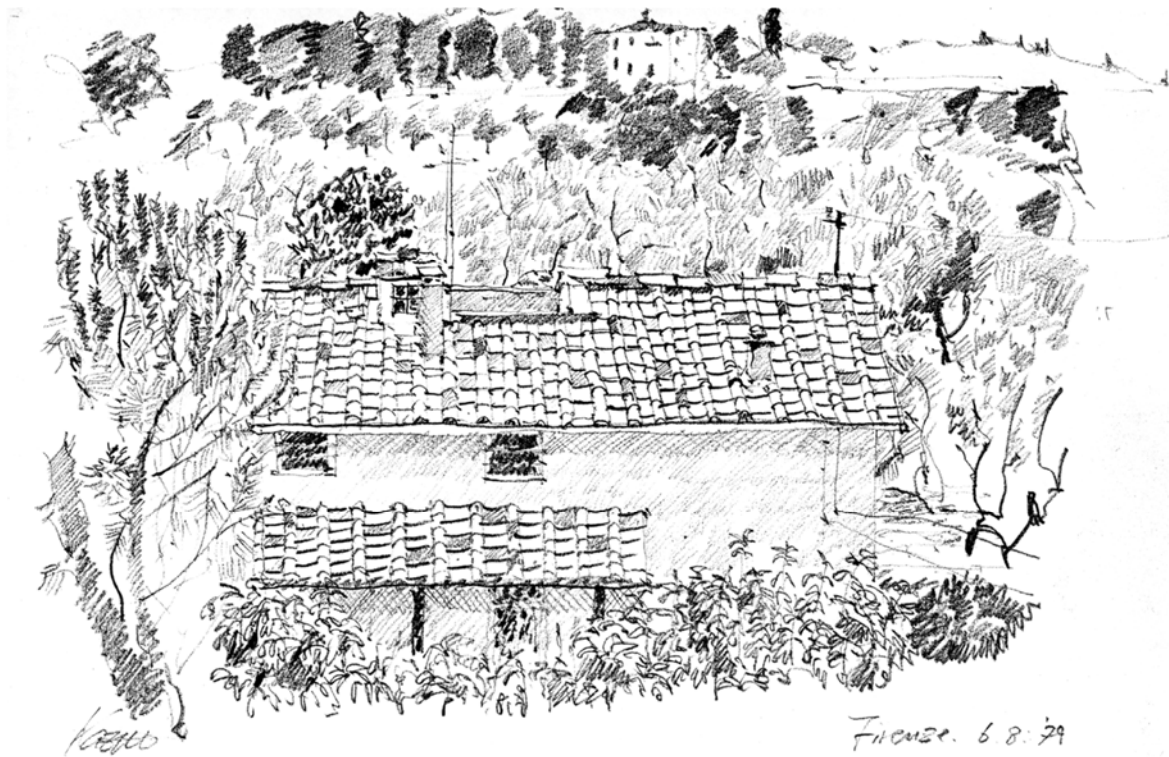


© Kazuo IWAMURA

3-2. イタリア、ヴェニス-3：暮らしのバナキュラー



3-2. イタリア、フィレンツェ：自然との共生



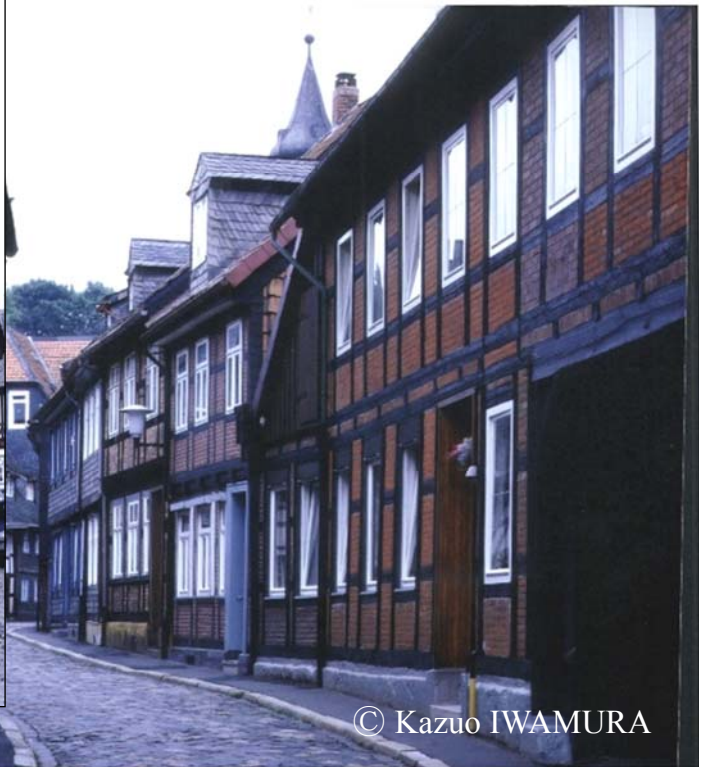
3-3. ドイツ：バナキュラーな家々



3-3. ドイツ、ヨーク：ハーレンハウス（ハーフトィンバーの農家）



3-3. ドイツ、ゴスラー-1 : ハーフティンバーの街並み



3-3. ドイツ、ゴスラー-2 : 豪商の家+ルネッサンスの影響



3-3. ドイツ、ウンターアマガウ-1 : アルプス山麓のバナキュラー



3-3. ドイツ、ウンターアマガウ-2 : 野趣に富んだインテリア



3-4. フランス、パリ-1 : 19世紀のオスマニアン都市構造



35

© Kazuo IWAMURA

3-4. フランス、パリ-2 : 19世紀のオスマニアン街並み



© Kazuo IWAMURA



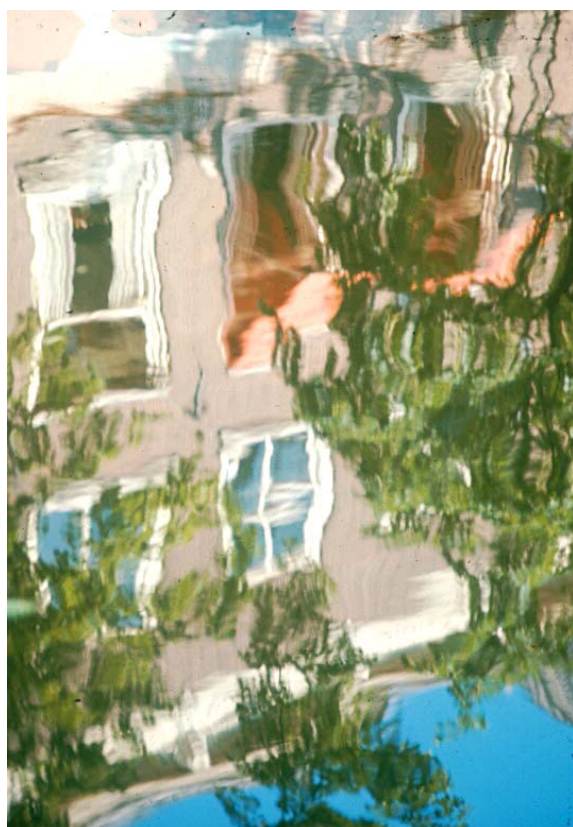
3-5. オランダ、デルフト-1 : 運河が巡る水のまち



37

© Kazuo IWAMURA

3-5. オランダ、デルフト-2 : 彩りが水面に揺らぐまち



© Kazuo IWAMURA

4. 東南アジア

4-1. インドネシア

>バリ

4-2. 中国

>麗江



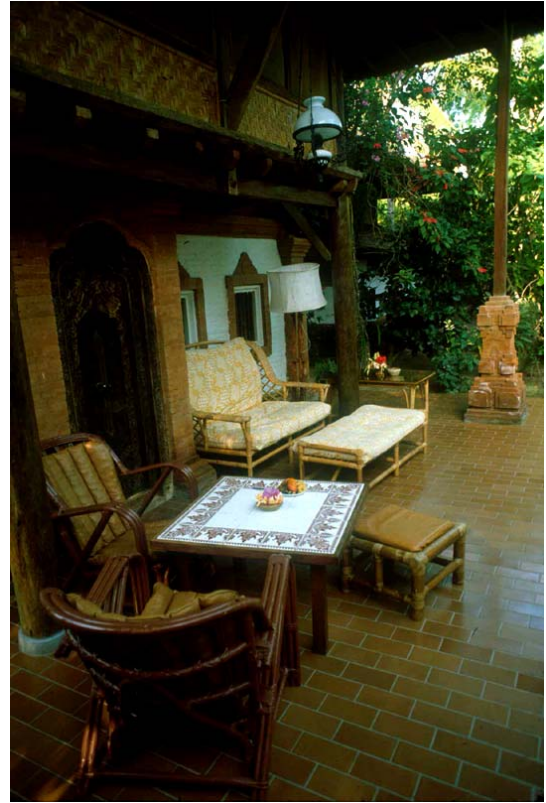
39

4-1. インドネシア、バリ-1 : バナキュラーなバンガロー



40

4-1. インドネシア、バリ-2 : バナキュラーな住まい



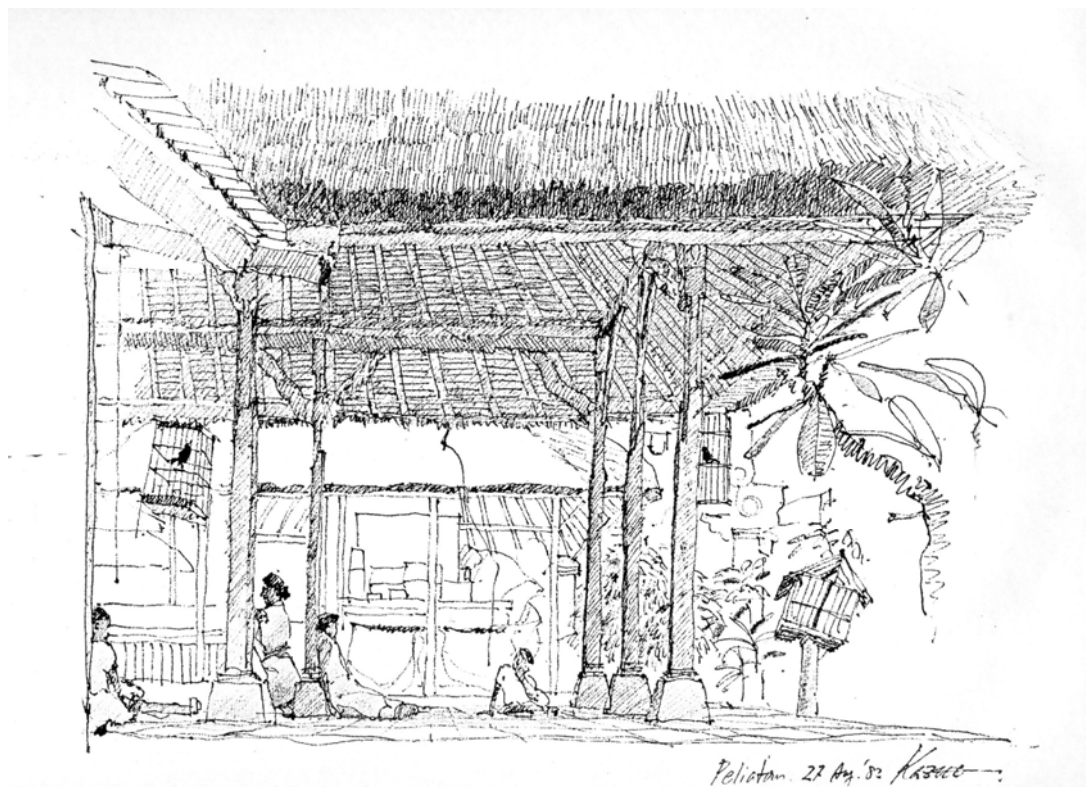
© Kazuo IWAMURA

4-1. インドネシア、バリ-3 : バナキュラーなコンパウンド

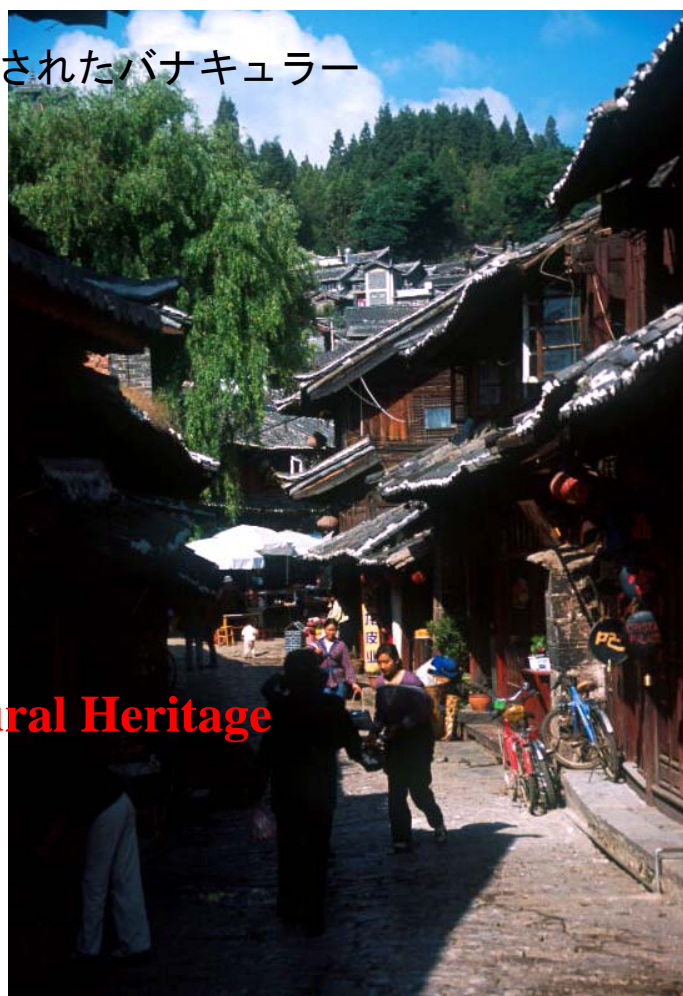
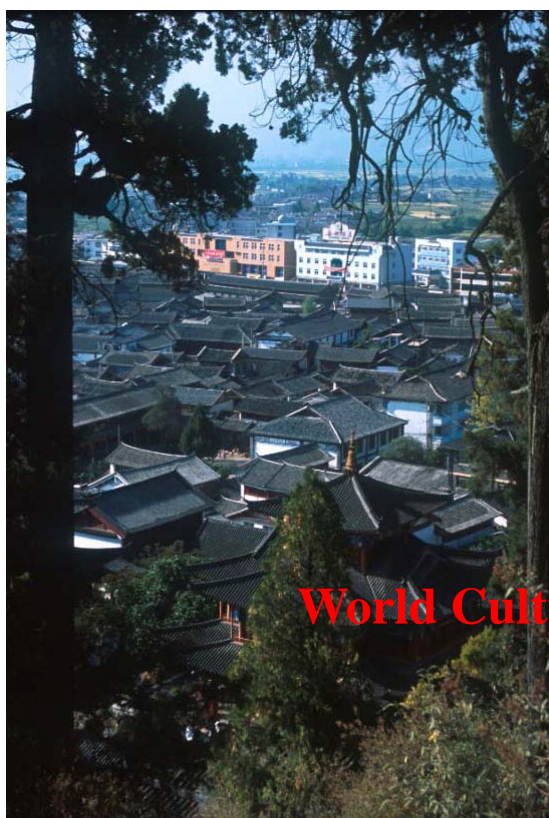


© Kazuo IWAMURA

4-1. インドネシア、バリ-2 : 踊りの伝統を紡ぐ舞台



4-2. 中国、麗江-1 : 再生、保存されたバナキュラー



4-2. 中国、麗江-2 : 水辺の暮らし



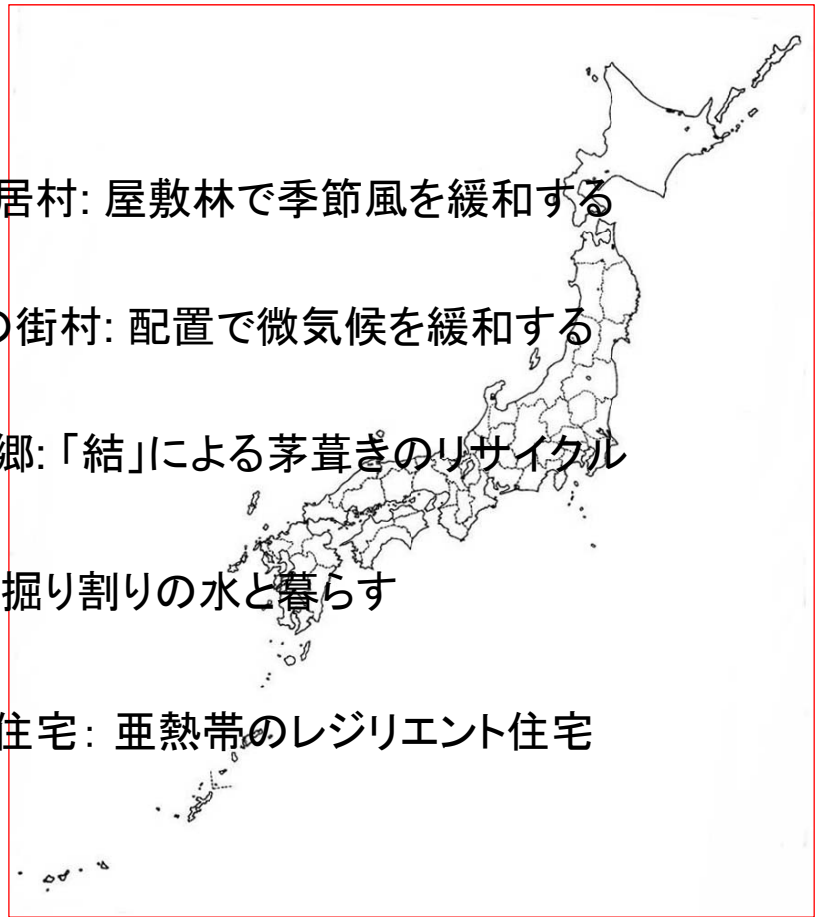
© Magdalena PRECHTL-IWAMURA

4-2. 中国、麗江-3 : 四合院の暮らし



5. 日本

- 5-1. 砺波平野の散居村: 屋敷林で季節風を緩和する
富山県
- 5-2. つくば(洞下)の街村: 配置で微気候を緩和する
茨城県
- 5-3. 飛騨高山白川郷: 「結」による茅葺きのリサイクル
岐阜県
- 5-4. 萩のまちなみ: 掘り割りの水と暮らす
山口県
- 5-5. 那覇の中村家住宅: 亜熱帯のレジリエント住宅
沖縄県



47

Zones

Northern Zone (1, 2, 3, 4)
HDD: D₁₈₋₁₈ > 3,000

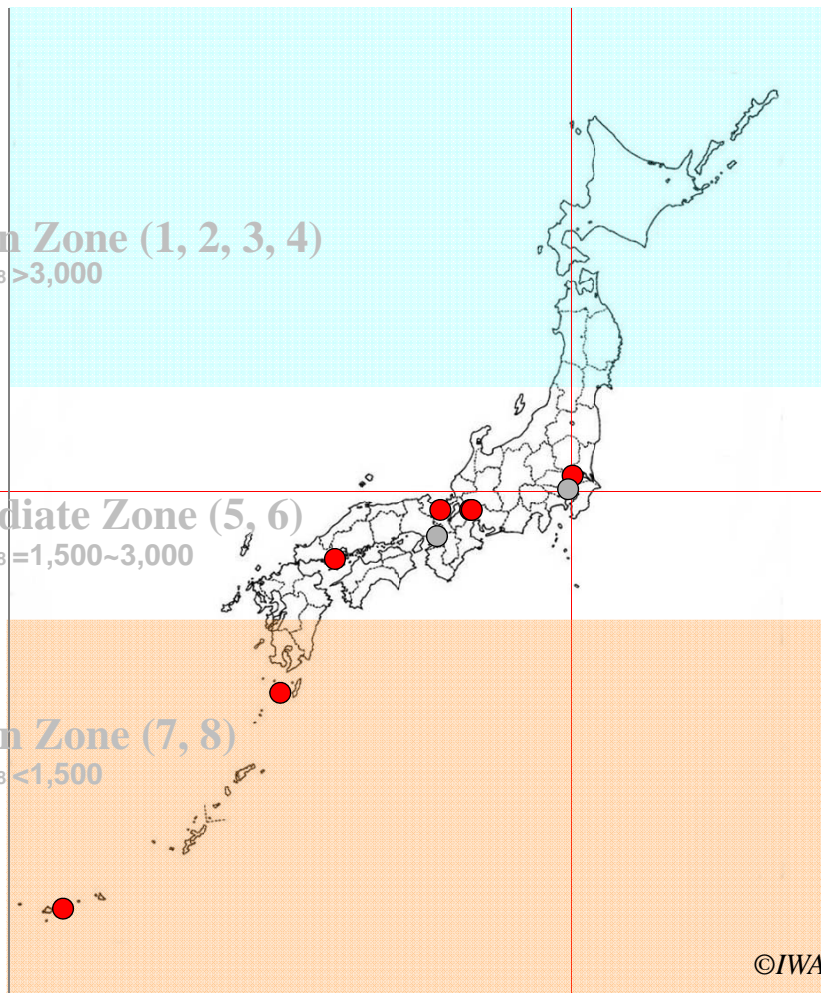
Intermediate Zone (5, 6)
HDD: D₁₈₋₁₈ = 1,500~3,000

Southern Zone (7, 8)
HDD: D₁₈₋₁₈ < 1,500

Cities

Tsukuba
Tokyo
Takayama
Toyama
Hagi
Yakushima

Okinawa



48

砺波(トナミ)平野鳥瞰(富山県)
Bird's Eye View of the Tonami Plain (Toyama Pref.)



新田開発の用水路の影響で形成された、
散居形式の集落構造。

The characteristic lay-out of dispersed settlements was formed due to the irrigation network for modern development of paddy field.

© Kazuo IWAMURA

砺波(トナミ)平野の散居型農家
A Typical Dispersed Farmhouse in the Tonami Plain



日照が必要な南東側を除いた周囲を囲む
屋敷林が、冬の季節風などから農家を
守ってきました。

A group of trees on site, covering all sides of the house, except the southeast for sun-lighting, has been protecting the farmhouse from seasonal harsh winds in winter.

© Kazuo IWAMURA

洞下(ホラゲ)集落鳥瞰 (茨城県)

Bird's Eye View of the Horage Village (Ibaraki Pref.)



神戸芸術工科大学 齊木 崇人教授 提供
Provided by Prof. Takato Saiki of Kobe Design University

街道筋に発達し、外側の平地林に守られた
街村形式の農村集落。

This linear village was developed along the both sides of a strait highway, while being protected from local winds by the linear woods laid on outer sides of the village.

© Kazuo IWAMURA

洞下(ほらげ)の農家

A Farmhouse in Horage



神戸芸術工科大学 齊木 崇人教授 提供
Provided by Prof. Takato Saiki of Kobe Design University

背後の平地林に守られた農家は
時を超えて愛され、現代に息づいています。

Such farmhouse protected by the wood behind has been beloved by people through the ages, and is still actively lived today.

© Kazuo IWAMURA

5-3. 飛騨高山白川郷

The “Kaya” straws used to make the traditional steep thatched roofs can also be dried out around the house, and used to make snow shelters and insulation mats against cold winter.

The used thatch can be then ploughed into the farming field as fertilizer or laid on the ground as mulch to prevent weed growing, eventually returning to the earth.

Such ecological culture is supported by the communal collaborations.

茅葺き屋根のエコロジー*** (岐阜県白川郷の場合)

The ecology of the traditional thatched roof. (in the case of Shirakawa-go in Gifu prefecture)

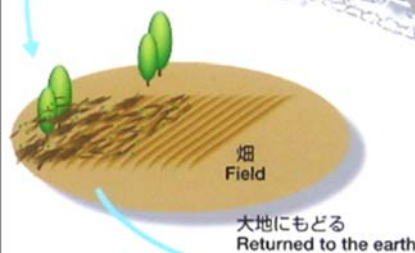


茅を葺く作業は「葺」という村人と、周辺集落の人々で構成される共同労働組織が行います。多いときは100～200人もが参加し、ほぼ1日で葺き終えます。

Thatching a roof is a communal effort involving up to 100 or even 200 people from nearby villages forming a collaborative labor organization, called “Yui”. The entire roof is thatched in almost one day.



葺きかえた茅
After re-thatching



© Kazuo IWAMURA



深い雪におおわれた冬の白川郷**
Shirakawa-go blanketed in deep snow during winter



雪囲いの取り付け**
Attaching the snow guards

雪に備えて雪囲いを家のまわりに取り付けます。春、雪が消えると小屋裏に置いて乾燥、保存し、やがて屋根の葺きかえに利用されます。

Snow guards are attached to the walls of the house before the first snow starts to fall. In spring, when the snow has all melted away, these thatch guards are dried out in the attic space. They will eventually be used to re-thatch the roof.

© Kazuo IWAMURA

萩のまちなみ
A Townscape in Hagi



運河沿いの民家には水を活かした
当時の生活の跡がそのまま残っています。

In a popular house along a canal, there still remain former unique scenes of living with water just as they used to be.

© Kazuo IWAMURA

萩の「ハトバ」
"Hatoba" in Hagi



屋内の一角に水路から水を引き込み、
炊事などに利用した通称「ハトバ」です。

So-called "hatoba" is an interior place where water is guided from the outside canal and used for cooking, etc.

© Kazuo IWAMURA

沖縄県 亜熱帯の3つの群島



島数計: 363
 人口: 1.41 百万人
 面積: 2,281 km²



5-5. 沖縄那覇の中村家住宅 (18世紀半ば)



家を台風等の強風から守る工夫: 石垣、屋敷林、ヒンプン、平屋、漆喰で固定した丸瓦



「アマハジ」: 多雨と日照から暮らしを守る、
深い軒下の、内部と外部との間の緩衝空間



屋根の下の自然通風・換気を可能とする開放可能な内外の開口部

B. バナキュラー建築の現代的解釈

1. バナキュラー建築と建築家
2. 日本-1: 市役所
3. 日本-2: 戸建住宅
4. 日本-3: 公営住宅団地

61

1. バナキュラー建築と建築家

プロの建築家がデザインした建築は、通常バナキュラー建築とは見なされません。

英国の建築史家、ポール・オリバー (Paul Oliver: 1927-2017) は、彼の著書「住居 (Dwellings)」の中で次のように述べています:

「...プロの建築家やコマーシャル・ビルダーが一般向けにデザインした大衆建築は、バナキュラー建築の範疇に入らない。」

彼はまた、「人々の、人々による、しかし人々のためではない建築」と、シンプルに表現しています。

フランク・ロイド・ライト (Frank Lloyd Wright) は、こう記述しています:

「実際のニーズに応え、地域の感性与フィットする術しかない人々による、環境に適応した大衆建築で、そのデザインは知的な思考が欠如した、プリミティブなものである。」

しかし、彼はまた、「我々にとっては、欧州の高度に美的でアカデミックと自認する試みよりも、学ぶ価値がある。」とも述べています。

62

(Source: Wikipedia, the free encyclopedia)

少なくとも19世紀末の〈アーツ・アンド・クラフト運動〉以来、多くの近代建築家達がバナキュラー建築を研究し、そこからインスピレーションを得て、自らのデザインに取り入れてきました。

1946年に、エジプト人建築家のハッサン・ファティ(Hassan Fathy: 1900-1989) は、ルクソール近郊ニューグルナの都市デザインを依頼されました。彼はヌビアの伝統的な村と建築技術を調査し、デザインに伝統的な日干レンガによるポールト屋根を導入しました。

様々な社会的、経済的理由でこの試みは失敗に終わりましたが、バナキュラー建築の手法や形態を採用することによって、建物のユーザーの社会的、環境的要求に応えようとした、初めての試みとして記録に残されています。

(Source: Wikipedia, the free encyclopedia)

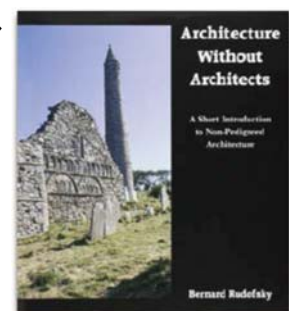
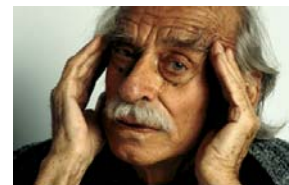
1964年、「**建築家なしの建築(Architecture without Architects)**」と題する展覧会が、ニューヨーク近代美術館で **バーナード・ルドルフスキー(Bernard Rudofsky:1905-1988)** によって開催されました。

同じタイトルで世界中のバナキュラー建築のモノクロ写真を挿入した書籍も出版され、展覧会は大変な人気を博しました。

ルドルフスキーは建築の分野で初めてバナキュラーという用語を用い、その考え方を一般の人々と、建築界の主流に対して訴えることに成功しました。

「このような建築に決った名称があるわけではなく、場合に応じてバナキュラー、無名の、自然発生的な、土地に根ざした、地方の、などと呼ぶべきである。」

1970年代にこの用語が出現して以来、個々の建築家の間にはその効果について多様な意見があるものの、バナキュラーな配慮は建築デザインにおける役割が増大してきました。



(Source: Wikipedia, the free encyclopedia)

B. バナキュラー建築の現代的解釈

1. バナキュラー建築と建築家

2. 日本-1:市役所

3. 日本-2:戸建住宅

4. 日本-3:公営住宅団地

65

沖縄県 亜熱帯の3つの群島



島数計:363
人口:1.41 百万人
面積:2,281 km²



5-5. 風土に根ざした市役所, 沖縄



名護市役所:

竣工: 1981年

述べ床面積: 6,149㎡

設計: Atelier ZO + Atelier Mobile



日本初のパッシブデザインによる市役所で、随所に亜熱帯で快適な環境をもたらす緩衝空間が設けられている (当初はACなしで使用された)



このパッシブデザインの先端的取り組みは、サステナビリティが世界的な課題となる前から、国内に大きな話題となり関心を集めた

B. バナキュラー建築の現代的解釈

1. バナキュラー建築と建築家
2. 日本-1:市役所
3. 日本-2:戸建住宅
4. 日本-3:公営住宅団地

69

Zones

Northern Zone (1, 2, 3, 4)
HDD: $D_{18-18} > 3,000$

Intermediate Zone (5, 6)
HDD: $D_{18-18} = 1,500 \sim 3,000$

Southern Zone (7, 8)
HDD: $D_{18-18} < 1,500$

Cities

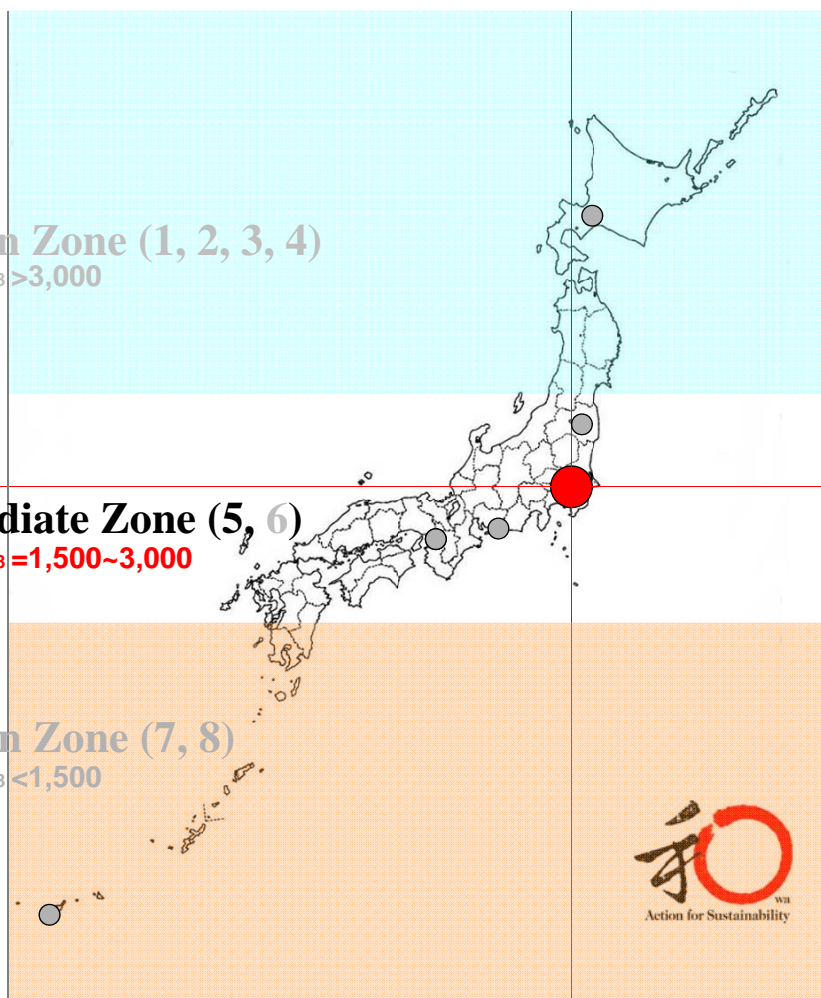
Sapporo

Sukagawa

Saitama
Tokyo

Yokosuka
Atsugi
Hamamatsu
Osaka

Itoman



70



ようこそ、
私は「ロ・ハウス(LO・House)」です

超少子高齢化社会はすでに始まっています。
気候変動などの地球環境問題も待ったなし。
身近な安全・安心も大きな課題。

日本人の暮らしも、日本人の住まいも、
そして日本の住宅市場も、
これらのキーワードで大きく揺れ始めています。

そこに応えながら、快適で美しく、
スマートな暮らしをめざす「ロハス*1」。
私はそんな暮らしをプロデュースする「ロ²・ハウス」です。

その基本は熱、光、音、風、香り、肌触り。
五感を通じて外界と対応する住まいです。
自然と向き合う暮らしです。

都市にも、田間にも、そこだけの場所があり、
ともに暮らす人たちがいて、次代を担う子どもたちがいる。
「ロ・ハウス」はそんな「暮らしを耕す」舞台です。

必要なエネルギーも、設備機器も、建材も、
十分吟味して選んで、
そして長く使えるように。

だから私の氏索性を明かします。
初期の仕様・性能はもちろん、その後の履歴を残します。
そして、程よい住まい方をおすすめします。

気持ち良く、心地よく、美しく、
市場が変わり、社会が変わる。
そんな住まい、「ロ・ハウス」の出番です。

その戸建の一例をご覧ください。

■ ENEX2007「ロ・ハウス」コーナー主催者
経済産業省

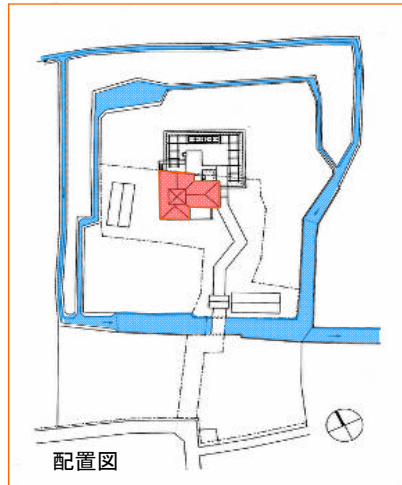
■ 事務局
財団法人 省エネルギーセンター

●「ロ・ハウス」については、経済産業省、国土交通省、環境省共催の「ロ・
ハウス構想推進に関する検討会」で、その考え方や推進方法等を検討
中です。

参考例

事例名称: 葎様の家(2008年埼玉県)
設計・資料提供: 株式会社 善利アトリエ

*1: LOMAS (Lifestyle of Health and Sustainability)
*2: Locality, Location, Genius Loci, Low Impact, Lookout
Life-Oriented, Longevity, Leadership of Housing



全貌



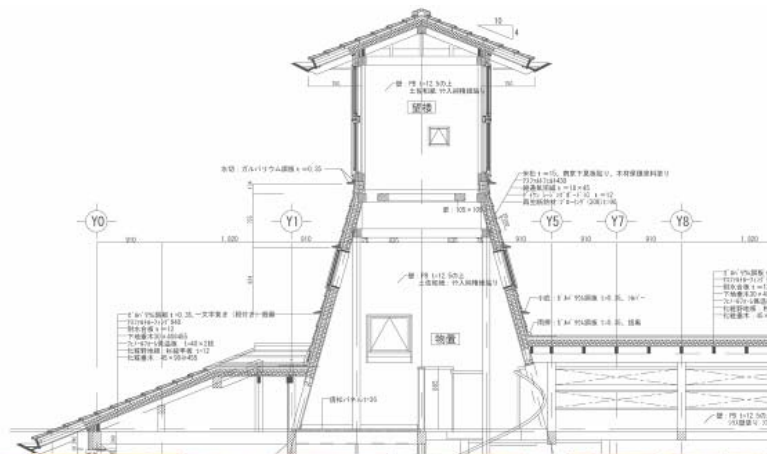
敷地配置図



内観見上げ



望楼の断面詳細



望楼の内部見上げ



相互に貫入する内部空間



自然換気のための地窓



望楼



General View



Northern Platform Garden

リサイクル PET断熱材



Texture of External Wall



リサイクル可能な床暖房パネル



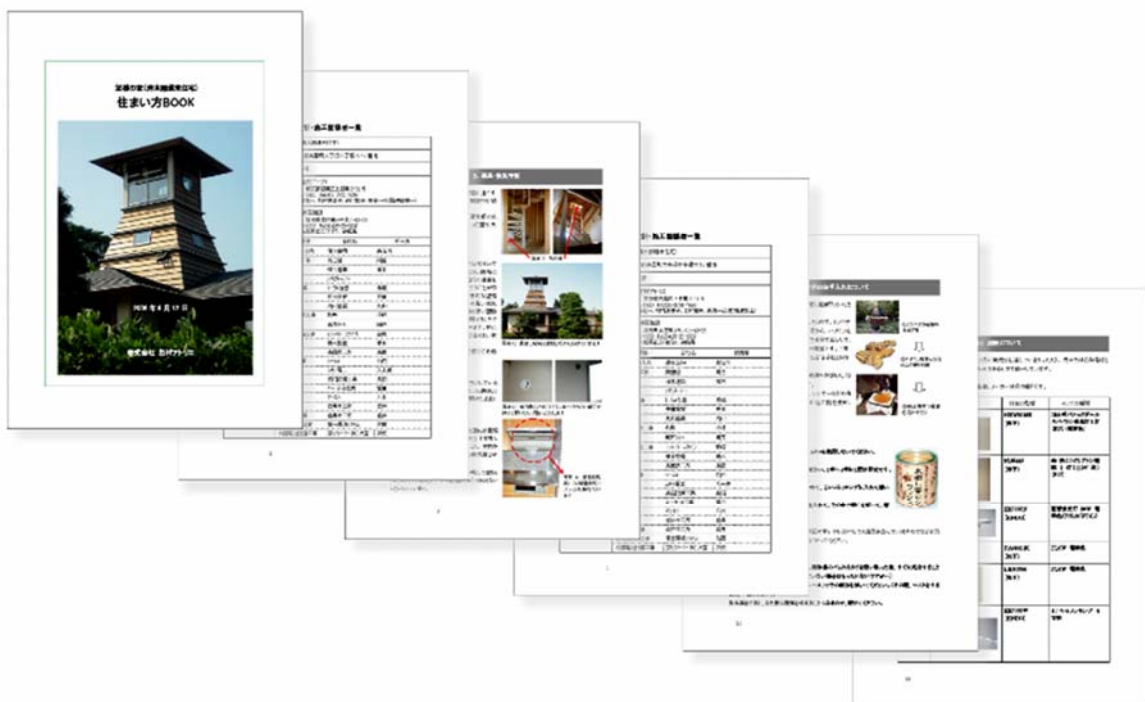
Pavement of Garden



Safe Finishing Materials

75

HOUSE BOOK



76

■“House Book” は、新旧の家の素性と履歴を詳細に記録した文書.

B. バナキュラー建築の現代的解釈

1. バナキュラー建築と建築家
2. 日本-1:市役所
3. 日本-2:戸建住宅
4. 日本-3:公営住宅団地

77

屋久島環境共生住宅

2001~2006, 鹿児島

- 公営(県営・町営)賃貸住宅
 - ・50戸(県営26戸+町営24戸)
 - ・共用施設
 - ・コモン+駐車場
- 敷地面積: 19,750 m²

Designed by: IWAMURA Atelier



78

Zones

Northern Zone (1, 2, 3, 4)

HDD: D₁₈₋₁₈ >3,000

Intermediate Zone (5, 6)

HDD: D₁₈₋₁₈ =1,500~3,000

Southern Zone (7, 8)

HDD: D₁₈₋₁₈ <1,500

Cities

Sukagawa

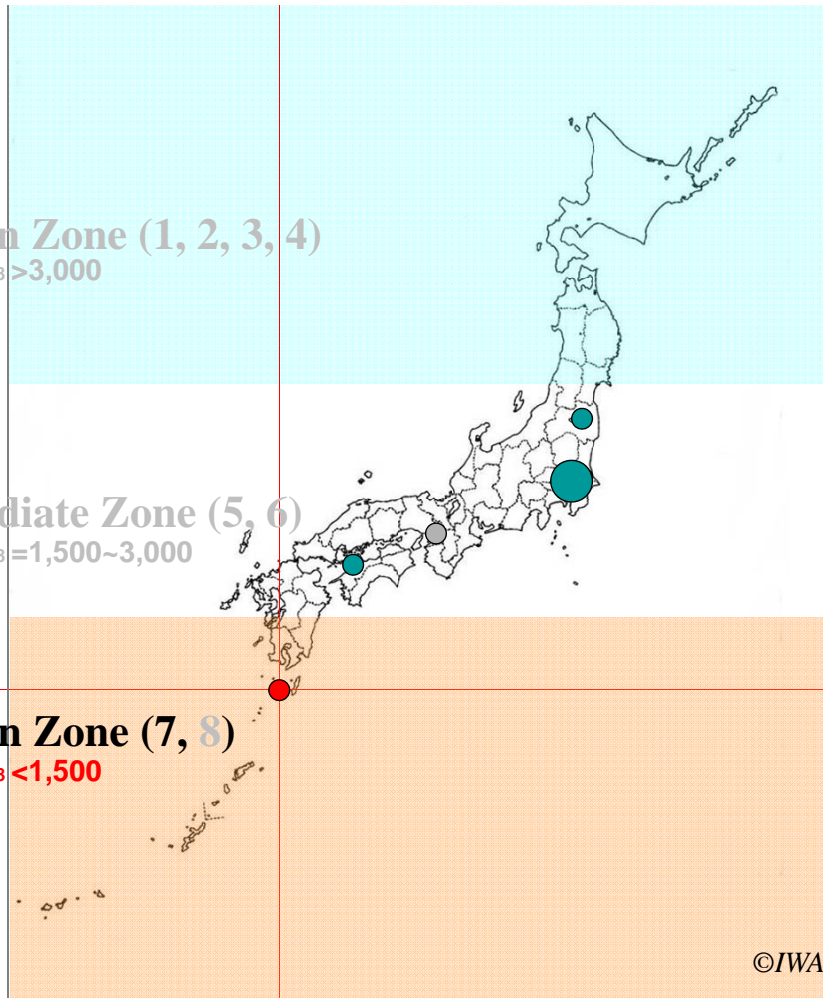
Tokyo

Kawasaki

Osaka

Matsuyama

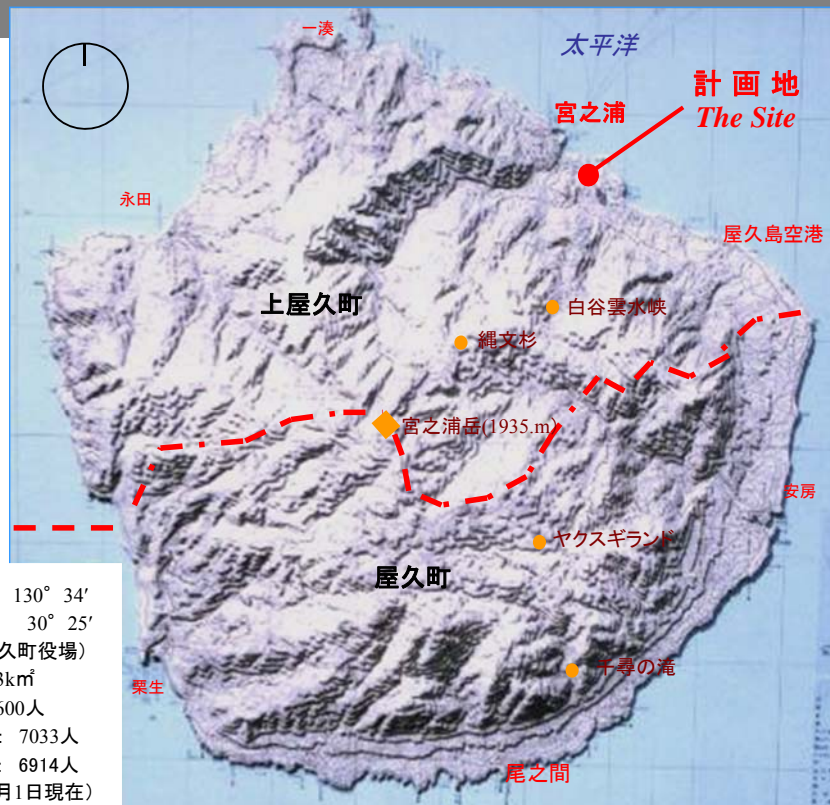
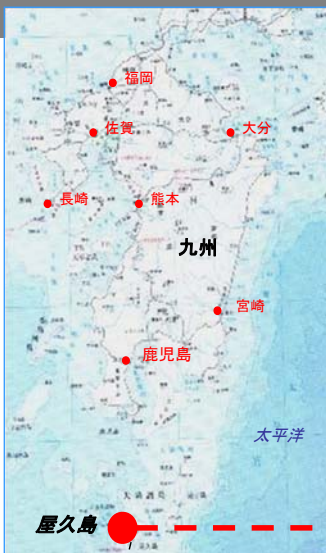
Yakushima



79

©IWAMURA Atelier Inc.

屋久島環境共生住宅の位置



■屋久島の概要

- ・位置 : 東経 130° 34'
北緯 30° 25'
(上屋久町役場)
- ・面積 : 約503km²
- ・人口 : 約13600人
上屋久町 : 7033人
屋久町 : 6914人
(平成12年5月1日現在)

80

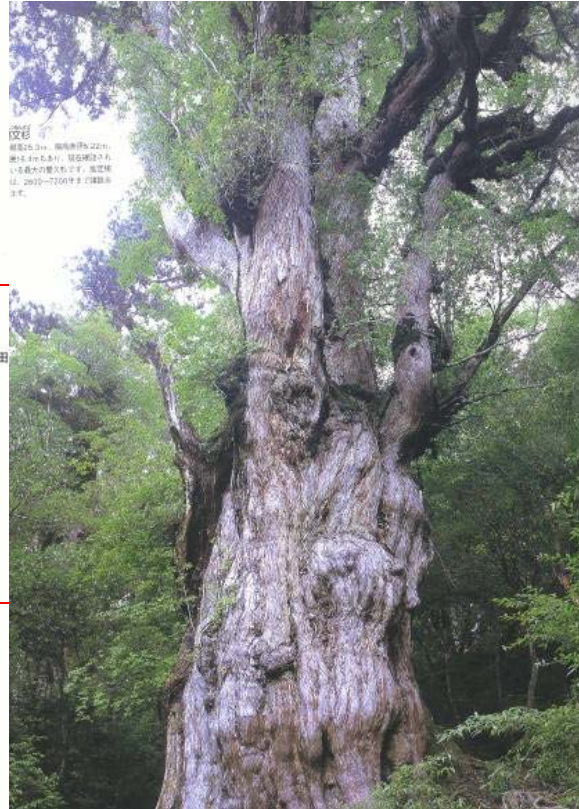
屋久島の自然: World Natural Heritage



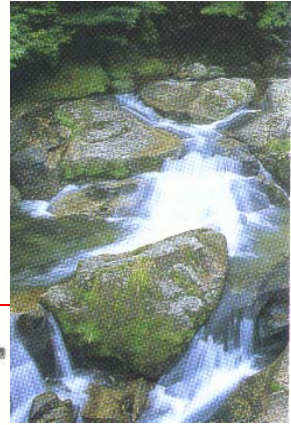
■ 小花之江河の眺め



■ ヤクスランド内の清流



■ 縄文杉



■ 白谷雲水峡

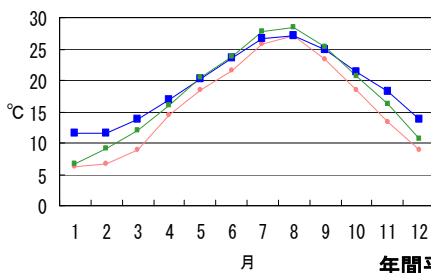


■ 千尋の滝の遠望

81

屋久島の気象条件-1 (気温・降水量・湿度・日照)

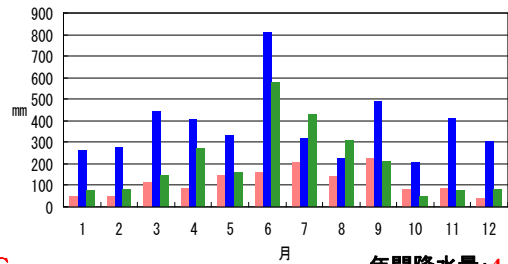
■ 気温 Temperature



年間平均気温: 19.14℃

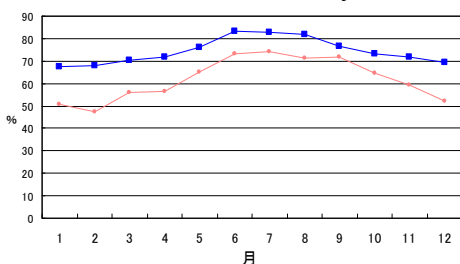
■ 屋久島 ■ 東京 ■ 鹿児島

■ 降水量 Precipitation



年間降水量: 4,488mm

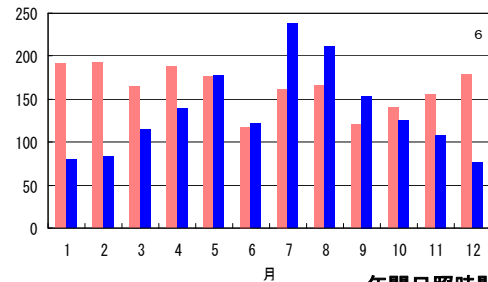
■ 湿度 Humidity



年間平均湿度:
74.35%

出典: 気象庁アメダスデータ(1993~97年)より

■ 日照時間 Hours of Sunlight

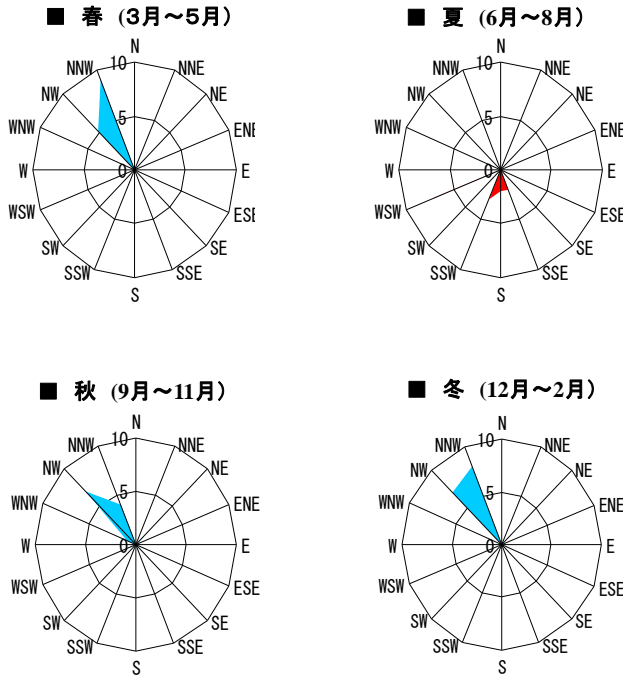


年間日照時間: 1,627h

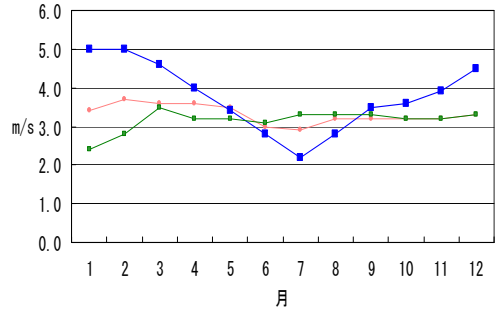
82

屋久島の気象条件-2 (風向・風速等)

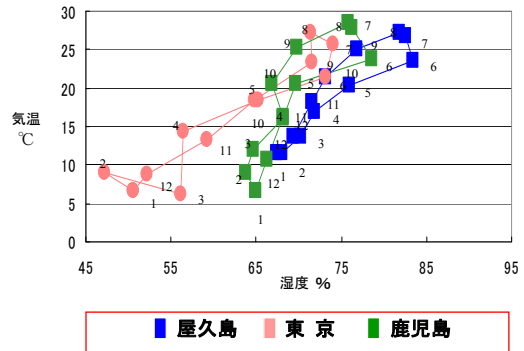
■ 風配図 Wind Directions



■ 風速 Wind Velocity



■ クリモグラフ Climograph



出典: 気象庁アメダスデータ(1993~97年)より

屋久島重ね暦(フェノロジーガイド): 地域性の総合的理解

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
気象												
最高気温(°C)	20.6	21.2	26.7	23.7	27.3	28.2	28.2	28.2	31.1	28	28.2	20.7
最低気温(°C)	4.6	2.7	6.9	7.2	12.7	16.6	16.6	16.6	16.6	13.7	10.6	5.9
平均湿度(%)	64	70	72	73	77	81	81	83	78	69	73	72
日照率(%)	20	21	23	42	49	36	47	47	31	27	29	31
降水量(mm)	132	178.5	467	308	343.5	469.5	430	345	420	335.5	404	250.5
一般行事	正月(1日)七草(7日)・3月節句				川開き		奥島観光・盆(13日)					
民謡	(特に時期はなく歌い継がれている)											
童戯	ろ漕ぎ歌、マツバンダ、磯節、セットー節、ハンヤ節											
人文	竹馬、メン打ち(S10年頃まで)、針打											
(作物、山菜、海産)	ツツ(2月~4月) ヤマモモ(6月)											
	タラノメ(3月~4月) クサギ(3月~5月)											
	実エンドウ(1月~4月、12月) ガジュツ(2~5月)											
	タケノコ(3~5月) イワノリ(4月~5月)											
	お茶(1番茶4月、2番茶、5/末~6/上、3番茶、6/下~7/上)											
	キャベツ(1~5、11~12月) トコブシ(5月~9月)											
信仰(郷土祭り)	二十三日祭り、船祝い、鬼火たき、益救神社大燃、如竹祭り、山神祭り、トビウオ祭り											
産物	葉 中産 小瀬、安房地区											

基本コンセプト

屋久島の環境と折り合い、様々な生命が宿る場所
「屋久と一歩(YAKUTOPE)*」を育む

1. 場所を包む森羅万象を読み取り、山と里と海を巡る円環を結ぶ

山海万象

2. 新旧の地場の材と営みを活かし、屋久島の家づくりを発見する

樹庵造営

3. エネルギーと物質の循環を図り、住まい・まちづくりの系を紡ぐ

風水円環

4. 暮らしから屋久の世界を描き、集住と家並みの風景を醸成する

文里醸成

*「ト・ブ」は、ギリシャ語で「場所」を示す言葉の「トポス」に由来します。

■屋久島環境共生住宅(屋久と一歩)の円環構造



環境形成計画指針

1. 太陽と暮らす

- ・太陽エネルギーを利用する
- ・適切な断熱と日射遮蔽を行う
- ・適切な断熱を行う
- ・内外に影をつくる
- ・土面を確保し、しつらえを工夫する
- ・北側空間を有効利用する

2. 水と暮らす

- ・排水する
- ・雨を避ける
- ・雨水を利用する
- ・保水力を高める
- ・節水・水質浄化に寄与する

3. 風と暮らす

- ・空気の流れをつくる
- ・風力エネルギーを利用する
- ・強風・塩風害に対応する

4. 資源と暮らす

- ・省エネルギー設備機器を採用する
- ・耐久構造を長持ちさせる
- ・ライフスタイルの変化に対応する
- ・リサイクル資材・建材を用いる
- ・廃棄物を削減する
- ・地場産材を積極的に採用する

5. 生き物と暮らす

- ・表土の流出を防止する
- ・薬剤を過剰に利用しない
- ・水と緑の軸をつくる
- ・多様性を確保する
- ・貴重種・希少種の保護に配慮する
- ・多孔隙な空間を確保する

6. 地域社会と暮らす

- ・界隈を引き継ぐ
- ・伝統的に学ぶ
- ・伝統的に暮らす
- ・人と人の交流を進める
- ・家づくりに参加する
- ・まちづくりに参加する
- ・リサイクルマーケットを設置する

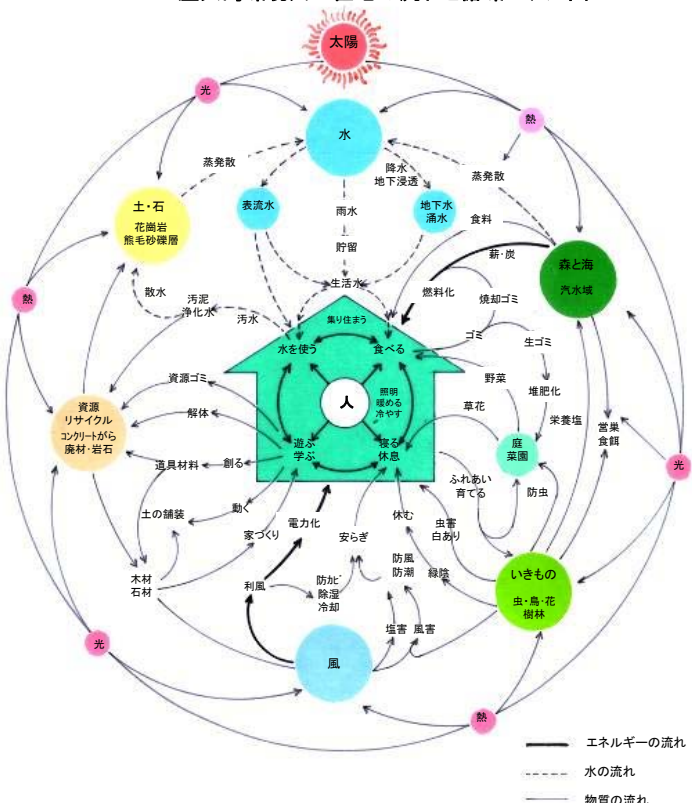
7. 自然と暮らす

- ・生き物とふれあう
- ・音・香り・感触を楽しむ
- ・緑化によって、熱環境の質を向上する
- ・原風景を引き継ぐ

8. 安心して暮らす

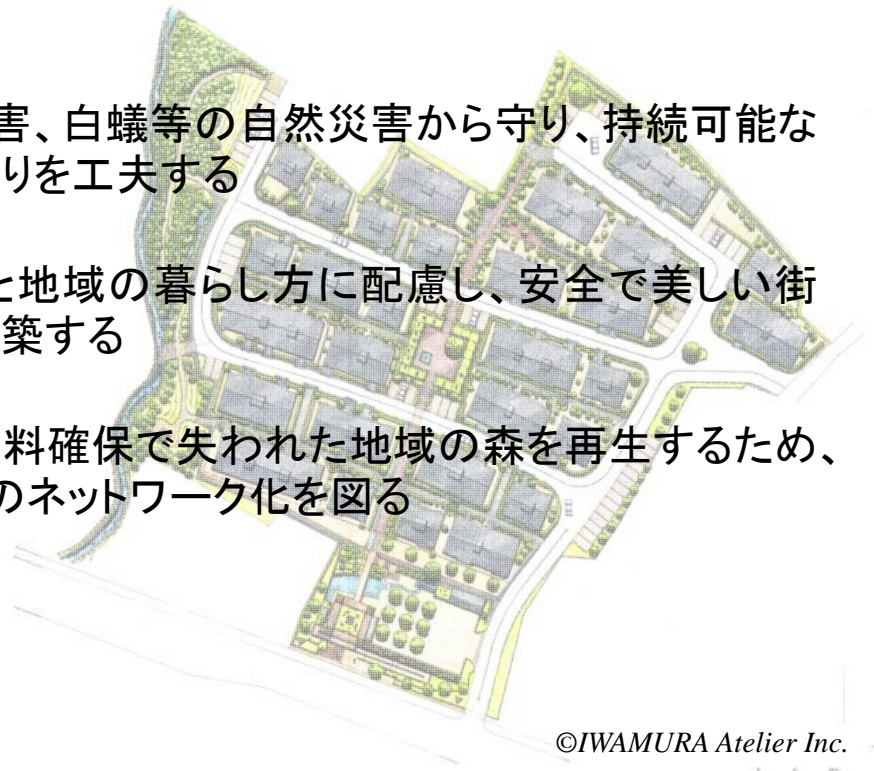
- ・利用者の特性に配慮する
- ・白ありの被害に対応する
- ・安全な材料を用いる
- ・カビ・結露を防ぐ
- ・非常時に備える

■屋久島環境共生住宅の流れと循環モデル図



屋久島環境共生住宅の主な達成目標-1

- 1) 台風、豪雨、塩害、白蟻等の自然災害から守り、持続可能な住まい・まちづくりを工夫する
- 2) 敷地の原地形と地域の暮らし方に配慮し、安全で美しい街並みと風景を構築する
- 3) たたら製鉄用燃料確保で失われた地域の森を再生するため、緑を育成し、そのネットワーク化を図る

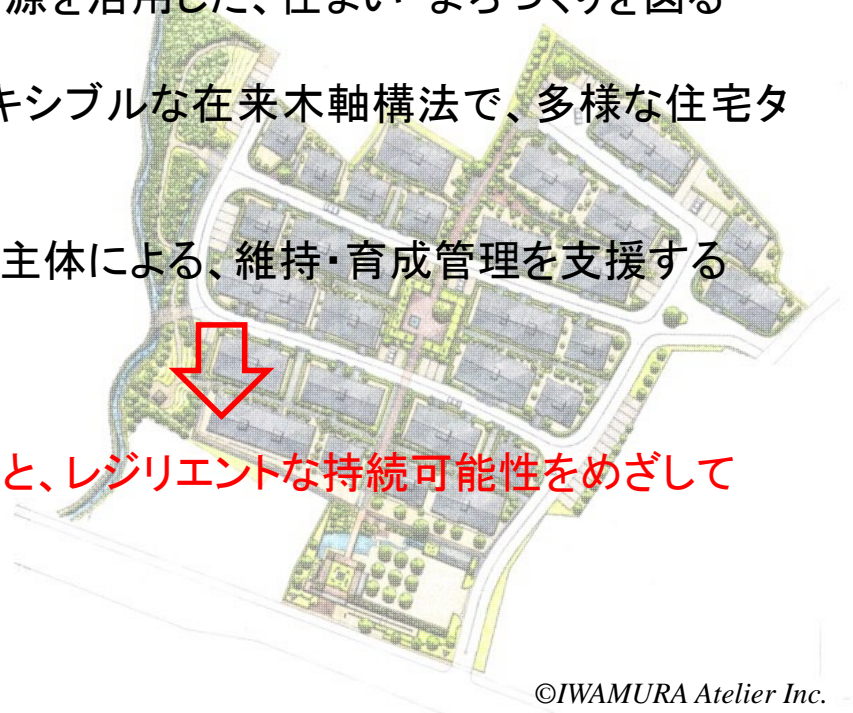


87

©IWAMURA Atelier Inc.

屋久島環境共生住宅の主な達成目標-2

- 4) 屋久島の地場資源を活用した、住まい・まちづくりを図る
- 5) シンプルでフレキシブルな在来木軸構法で、多様な住宅タイプを提供する
- 6) 住み手の参加と主体による、維持・育成管理を支援する



人間の安全保障と、レジリエントな持続可能性をめざして

88

©IWAMURA Atelier Inc.

永田の民家・集落：バナキュラーな美しい集落

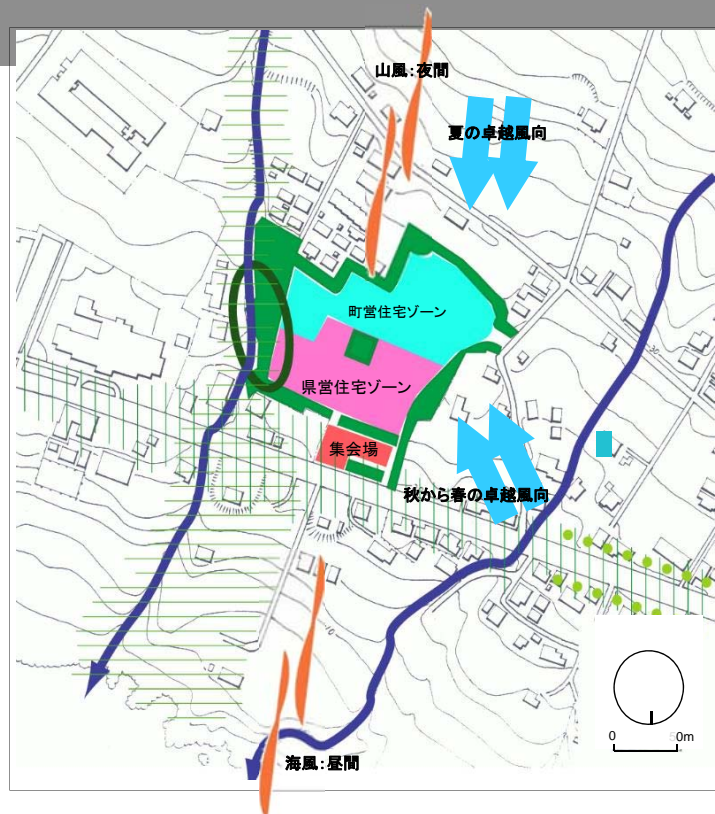


89

環境形成計画：敷地周辺与条件の活用

目次

-  既存街路樹
-  沿道ゾーン
-  水系緑地ゾーン
-  ピオトープ
-  町営住宅ゾーン
-  県営住宅ゾーン
-  集会場
-  保全緩衝緑地
-  小川
-  季節風卓越風向
-  山風・海風卓越風向



90

全体配置計画

- かつての海岸段丘樹林の再生をめざす緑化ネットワークの拠点化
- 屋久島の自然素材(木・石)を活かした住まい・まち

- 台風・豪雨・塩害・白蟻に耐え、長く使える基盤整備と家のつくり
- シンプルな軸組とバリエーションで、多彩な型別供

- 一坪菜園
- 集合駐車場

- 親水緑地保全区
- 団地内道路(ボンエルフ)

- 既存小河川
- 中央広場

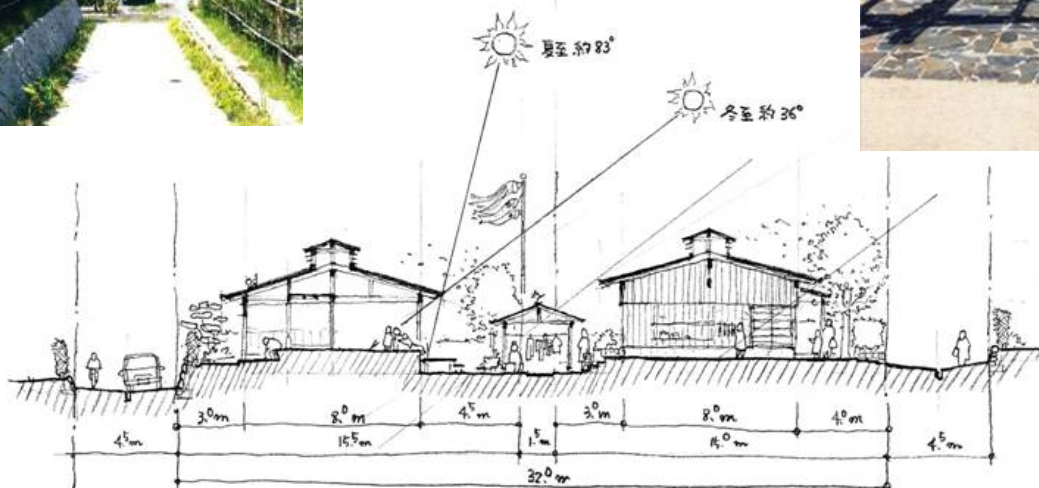
- せせらぎ

- 緩衝緑地帯
- 水盤と橋

- 原地形になじんだ安全で美しい造成、まちなみの創出
- 住人による自主的な育成管理がしやすく、またたくなる団地のしつらえ

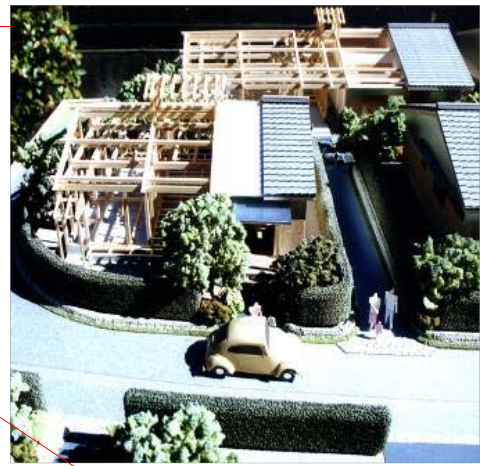
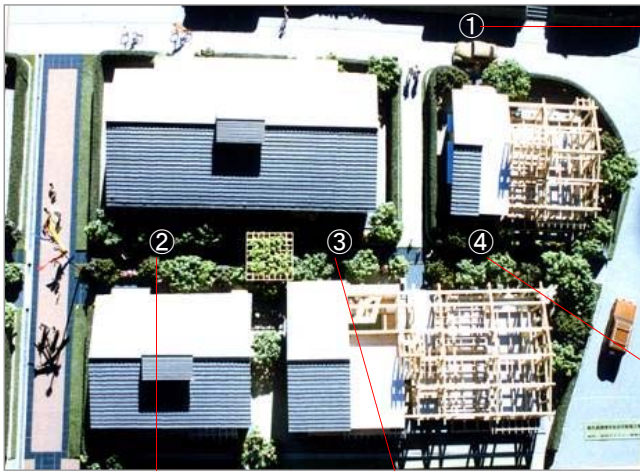


91



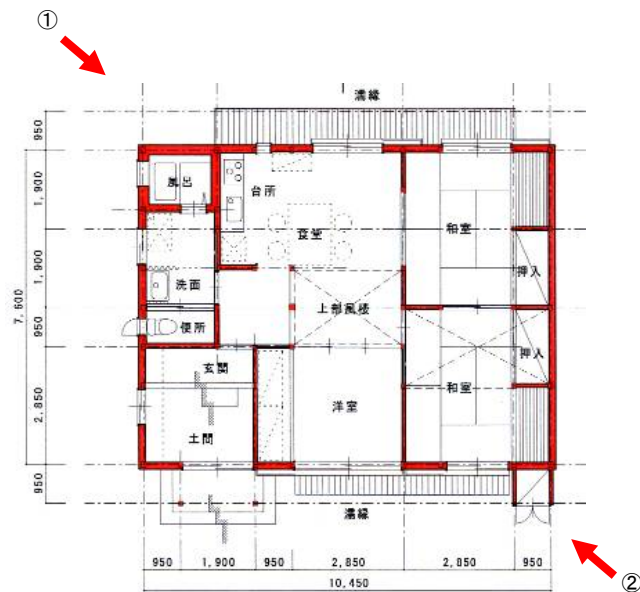
92

住棟配置と背割りコモンのイメージ



93

住戸(Aタイプ)の軸組みと構法



①北西からの俯瞰



②南東からの俯瞰

94

住区のまちなみ (2001)



95

地域の既存伝統集落に学んだ住宅のつくり方、配置に基づくまちなみの形成

住戸内空間と背割りコモン



96

■広い玄関



■濡れ縁から背割りコモンを望む

住戸内部のしつらえ(越屋根と床下)



■越屋根の見上げ



■スギの荒床と床下の廃材木炭

97

集会場：団地と地区の交流・レジリエントセンター



■前岳を背景に集会室正面をのぞむ

98

中央広場

as of August 2004



99

中央モール



■中央広場の背後に前岳をのぞむ



風力発電で循環する小水路



■集会場屋上の向こうに海が広がる

100

背割りコモン

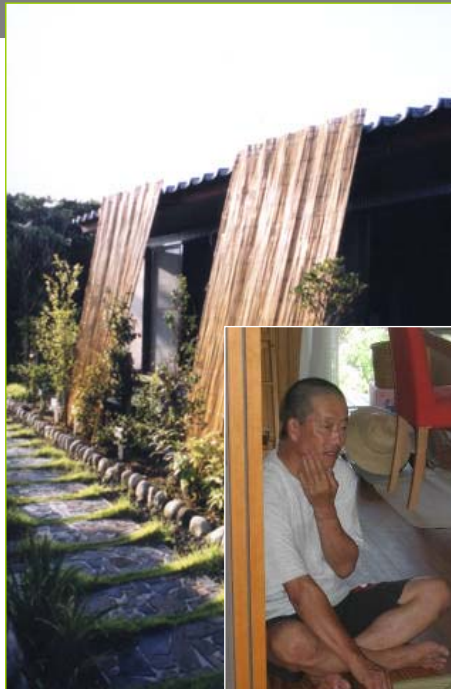
as of August 2004



101

住み手の工夫

as of August 2004



■住み手による強い陽射しを緩和する工夫



102

■夏期の住まい方

©IWAMURA Atelier Inc.

家並みと周辺環境のインテグレーション



103

結語

結語として、本テーマに深く係わり、大変意味深い中国戦国時代の四行詩を紹介したいと思います

内 氣 萌 生

Internal energy brings life.

外 氣 成 形

External energy creates form.

内 外 相 乗

Both internal and external energy complement each other.

風 水 自 生

Feng Shui will then be born naturally.

104